

人文学部

Faculty of Humanities
and Social Sciences

私たちの生活を考える上で不可欠なのは、
多様で複雑な文化や社会についての知識や洞察力。
それを追い求めるのが人文学部です。



人文学部では

このような人を育てます。

人間が創り出してきた文化や社会を、より広く深く理解するための多様な知的探求を行います。人文科学や社会科学のさまざまな研究分野にふれ、それらの理論にもとづき、人間社会のかかえる問題を見いだす“感性”を、その問題の適切な解決へのアプローチを学ぶことによって、分野の壁をこえて文化や社会をとらえる総合的な視点や、古い枠にとらわれない“思考力”を育てます。また、このような学びの場を通じて、現代社会を“生きぬく”ための知的立脚点の獲得をめざします。そして、いつの時代にも変わらぬ人間の本質を見つめつつ、複雑化する現代世界と激しく変化する人間社会を正しく認識し、次々と生じる問題に立ち向かい創造性あふれる提言ができる“コミュニケーション力”を培います。卒業後は、企業、官庁、教育界からNPO、起業などの新たな分野に至るまで、地域においても国際的にも幅広く活躍できる人材を育成します。

このような人を求めます

- 人間の文化、または、社会の動きやしぐみに強い関心・好奇心をもっている人。
- 積極的・人間的に生きるために、人間の文化や社会について深く理解することを望む人。
- 現代社会における諸問題を理解し、解決策を探求しようとする意欲がある人。
- そのために必要な基礎学力、論理的思考力、読解力、表現力を持ち、これらの力をさらに高めようとする意欲にあふれる人。

文化学科

さまざまな地域の文化について、言語・文学・思想・歴史・社会・地誌等の視点から研究します。

2年次前期末に、3つの専修から1つを選びますが、地域文化専修または言語文化専修を選択した場合には、4つの地域のうち1つを重点的に研究することになります。環境文化専修を選択した場合には、地域を越えて、文化論の視点から環境に関わる諸問題に取り組み、研究を進めます。

文化学科のカリキュラム

	日本研究	アジア・オセアニア研究	ヨーロッパ・地中海研究	アメリカ研究
地域文化専修	日本の地域文化に関する研究	アジア・オセアニアの地域文化に関する研究	ヨーロッパ・地中海の地域文化に関する研究	アメリカの地域文化に関する研究
言語文化専修	日本の言語文化に関する研究	アジア・オセアニアの言語文化に関する研究	ヨーロッパ・地中海の言語文化に関する研究	アメリカの言語文化に関する研究
環境文化専修	世界の環境に関わる諸問題の研究			

あなたの知識欲を満たす2学科の扉が開く。

社会科学科

社会科学科では、法学・政治学・経済学・経営学の学習を通して、現代社会の抱える諸問題の解決に取り組みます。基礎総合・専門基礎科目などを学んだ後、2年次前期末には3年次から所属するゼミを選択し、それに応じてそれぞれのコースが決定します。

法政コース

法学・政治学といった学問分野を中心に学びます。

統治システム履修プログラム

国内外の統治システムに関わる専門科目からなっています。

生活法履修プログラム

日常生活と関わる法分野と、法哲学や法思想史などの基礎法学からなっています。

現代経済コース

経済学や経営学といった学問分野を中心に学びます。

地域経済履修プログラム

経済の基本的な仕組みに関する専門科目と、具体的な経済問題と関わる専門科目からなっています。

企業経営履修プログラム

企業経営を理解するための科目と、企業環境を正しく読み解くための専門科目からなっています。

取得可能な免許・資格

所定の単位を修得することにより様々な資格等が取得できます。

教員免許

文化学科：中学校教諭一種（国語・社会・英語）、高等学校教諭一種（国語・地理歴史・公民・英語）
社会科学科：中学校教諭一種（社会）、高等学校教諭一種（地理歴史・公民）

その他の資格

図書館司書、学芸員、学校図書館司書教諭



人文学部
社会科学科 3年
愛知県出身

大学は自由かつ
自分の可能性を
広げる場所

◆大きな達成感を得た大学祭

僕は1年生の時から大学祭の実行委員として活動しました。最初はそうでもなかったのですが、学年が上がるにつれ、先輩としての自覚や責任感が芽生えていきました。特に同学年のメンバーが少なかったのが、大変な面もありましたが、その分団結力は強くなったと思います。

なかでも印象深いのは、3年生の時の大学祭です。大学祭の日には、正門から入ろうとする車が多く、国道23号線が渋滞し、例年苦情が出ていました。そのため、裏門に車を誘導できるように、中央分離帯や歩道に誘導標識を立てる許可を警察に申請していたのです

が、当初は認めてもらえませんでした。そこで、どこにどのように案内を設置するのかしっかり検討し、警察だけでなく国土交通省にもお願いし、やっと認めもらうことができました。大学祭当日は渋滞が起きず、1件の苦情も出ずに終了し、大きな達成感を味わうことができました。

◆自分の可能性を信じて

2年生の時、憲法の講義がとてもわかり易く、「この先生の下なら法学をわかり易く学べるだろう」と思ったことがきっかけで、憲法ゼミナールに入りました。憲法改正論議をテーマに勉強しているのですが、例えば、現行憲法と複数の憲法

改正案のちょっとした文言の違いから、各政党がどのような国家を目指しているのかを探ったりします。

実は、高校生の頃はまだ学びたいことが決まっていなかったのが、幅広く学び自分の可能性を広げられるところに進みたいと考え、人文学部を志望しました。数学が苦手でしたが、最後まであきらめず勉強し、センター試験では目標としていた点数を取ることができ、合格することができました。自分の可能性を信じて、最後まで努力することが大事だと、今は自信を持って言えます。卒業後は、大学がそうであったように、自分の可能性を広げられる企業で働きたいと思っています。

社会科学科3年次時間割の一例 (上段：前期、下段：後期)

	1・2限 (8:50~10:20)	3・4限 (10:30~12:00)	5・6限 (13:00~14:30)	7・8限 (14:40~16:10)	9・10限 (16:20~17:50)
月	福祉経済論	国際法 地方自治論	地域経済論 国際関係論	経済原論	地方自治論ゼミ
火		金融論 会社法	行政学	財政学	
水				労働法	労働法
木	国際法 地方自治論	地域経済論 国際関係論	行政学	行政法総論	行政法総論
金	経済原論		金融論 会社法		

環境の良さは
入学してわかる
魅力のひとつ

人文学部
文化学科 3年
三重県出身



◆母語習得の不思議

私は現在、言語学を専門的に勉強しています。言語の知識と同じ性質を持つ知識は人間にしか存在せず、他の生物には観察されません。また、人間の赤ちゃんは、接した言語であれば何語であっても例外なく母語として身につけることができます。この観察に基づき、言語学では、人間には生まれつき言語を習得するための仕組みが備わっていると仮定しています。

私は、この仮説に基づき、その仕組みが具体的にどのような性質を持つかを研究しています。研究の一環として、保育園に協力して頂き、幼児を対象とした言語の調査を行ったこともあります。実は、英語を中心に勉強したいと思っていたので、言語

学を専門にするつもりではありませんでした。しかし授業を受けるうちに興味を持つようになり、言語学に関する講義は積極的に受講しています。英語に関しても、ネイティブの先生による少人数の授業を通して、英語力がついてきたと感じています。

◆三重大だからできたこと

他に印象に残っているのは、共通教育の海洋実習で勢水丸に乗船したことです。3泊4日の予定が、悪天候で1日短くなってしまいましたが、三重大だからできる貴重な体験でした。オープンキャンパスとミニオープンキャンパスでは、高校生のみ皆さんの前でスピーチをする機会があり、就職活動を控え度胸がついた

うえ、学生生活や専門分野のことを振り返り、大学の良さも再確認できました。例えば、ここには都会にはない豊かな緑や静かさがあり、落ち着いて集中することができます。図書館の蔵書も充実しているので、本当に勉強に最適な環境だと言えます。このように、入学してから気付く三重大学の魅力がたくさんあり、入学して良かったと思います。

就職活動では、いろんな企業を訪れていますが、コンビニでのアルバイトを通して、人と接するおもしろさを知ったので、人と関わる仕事に就きたいと考えています。そして卒業後に後悔しないためにも、在学中は全力で勉強するつもりです。

過去2年間の就職先・進学先の一例

公務員・教育関係等

国税庁名古屋国税局、国土交通省中部地方整備局、津法務局、静岡労働局、三重県庁、愛知県庁、桑名市役所、志摩市役所、鈴鹿市役所、津市役所、松阪市役所、安城市役所、一宮市役所、知多市役所、名古屋市役所、岐阜市役所、三重県警、愛知県警、岐阜県警、四日市市消防本部、愛知社会保険事務所、日本郵政公社、中学校教員、高等学校教員、大学職員

一般企業

旭化成ホームズ、鹿島建設、シャチハタ、シャープ、住友電装、セイコーエプソン、積水ハウス、大日本印刷、中部電力、東邦ガス、豊田自動織機、松下電器産業、日立システム、YKK、NTT西日本、NTTドコモ東海、イオン、JR東海、JR西日本、JALスカイ名古屋、名古屋鉄道、日本航空インターナショナル、日本通運、三重交通、ヤマト運輸、第三銀行、名古屋銀行、百五銀行、三重銀行、三菱東京UFJ銀行、リソナホールディングス、岡三証券、大和証券、野村證券、第一生命、東京海上日動火災、日本生命、三井住友海上火災、明治安田生命、JA三重

過去の進学先の一例

進学 (法科大学院含む)

三重大学大学院、筑波大学大学院、東京理科大学大学院、横浜国立大学大学院、名古屋大学大学院、大阪大学大学院、広島大学大学院、立教大学大学院、立命館大学大学院、名古屋大学法科大学院、南山大学法科大学院、名城大学法科大学院、龍谷大学法科大学院

共通科目

オリエンテーションセミナー、比較思想、比較史学、比較社会論、比較地域論、比較文化論、比較文学、比較言語論、言語コミュニケーション論、環境論など

日本研究

日本研究総論、日本の思想、日本の歴史、日本の言語、日本の文学、日本の社会、日本の風土と地誌、日本考古学特講など

アジア・オセアニア研究

アジア・オセアニア研究総論、アジア・オセアニアの思想、アジア・オセアニアの歴史、中国の言語、アジア・オセアニアの言語、アジア・オセアニアの文学、中国の文学、アジア・オセアニアの社会、アジア・オセアニアの風土と地誌、アジア・オセアニアの民族と文化、中国語会話、中国語作文など

ヨーロッパ・地中海研究

ヨーロッパ・地中海研究総論、ヨーロッパ・地中海の思想、ヨーロッパ・地中海の歴史、英米の言語、イギリスの文学、ドイツの言語、ドイツの文学、フランスの言語、フランスの文学、ヨーロッパ・地中海の社会、ヨーロッパ・地中海の風土と地誌、ヨーロッパ・地中海の民族と文化、英語会話(中級・上級)、英作文(中級・上級)、ドイツ語会話、フランス語会話など

アメリカ研究

アメリカ研究総論、アメリカの思想、アメリカの歴史、英米の言語、アメリカの文学、アメリカの社会、アメリカの風土と地誌、アメリカの民族と文化、英語会話(中級・上級)、英作文(中級・上級)など

環境文化専修

環境特論、社会環境論、社会心理学、国際平和論、科学史・科学論、学術情報論、生命倫理論、生命論理特論など

共通科目

オリエンテーションセミナー、基礎総合科目(A・B)、憲法、民法総則、経営学総論、近代経済学、政治学原論、経済原論など

法政コース

統治システム履修プログラム

憲法、憲法制度論、政治学原論、政治学特論、比較政治論、国際法総論、国際組織法、国際法各論、日本政治史、日本政治史特論、行政学、政策過程論、政治思想史、現代政治理論、行政法総論、行政法各論、行政救済法、地方自治論、地方自治特論、環境法、国際関係論、西洋政治外交史、計量政治学など

生活法履修プログラム

民法総則、債権総論、物権法、債権各論、家族法、刑法総論、刑法各論、刑事訴訟法、少年法、刑事政策、会社法、手形小切手法、商法総則、商取引法、法哲学、法哲学特論、法思想史、民事訴訟法、民事執行法、倒産法、現代裁判論、労働基準法、労働組合法など

現代経済コース

企業経営履修プログラム

経営学総論、人的資源管理論、多国籍企業論、経済原論、経済思想史、マーケティング、中小企業論、日本経済史、日本経済史特論、金融論、証券経済論、日本経済論、日本経済特論、会計学、簿記、コーポレートファイナンス、国際金融論など

地域経済履修プログラム

近代経済学、マクロ経済学、ミクロ経済学、国際経済論、財政学、経済数学、地方財政論、経済地理学、都市経済論、地域経済分析、産業経済論総論、産業経済論各論、計量経済学、経済統計、福祉経済論、社会保障論、経済政策、地域経済政策、西洋経済史、統計学など



人文学部 社会科学科

洪 恵子 教授

Profile

国際刑事法を専門とし、犯罪人引渡制度や国際刑事裁判所の研究などを行っている。2003年米国コロムビア大学法科大学院客員研究員。

専門選択までの時間が与えられる

人文学部は、哲学・歴史学・地誌学・社会学・言語学・文学・図書館学などの専門を通じて世界の文化を広く学ぶ文化学科と、経済学・経営学・法学・政治学という専門を通じて現代社会を学ぶ社会科学科の2学科から構成されています。私は国際組織法という法律科目を担当していますが、社会科学科には他大学の法学部と同程度の質と量をそなえた法律科目が用意されており、三重大を卒業後、法科大学院を目指す学生も増えています。何より人文学部社会科学科の良いところは、入学してから1年半は幅広く経済、政治、法律の導入科目を勉強し、その過程で自分がどのコースを専門課程で志望するかを考えることができるという点です。私が所属する法政コースの場合には、憲法や行政法を学んで公務員として活躍したいという学生がいたり、民法や商法を学んで企業人として活躍したいという学生もいて、それぞれのニーズに対応できるようにカリキュラムが組まれていることが特徴的です。

自分の可能性を広げる

私は「国際組織法」の講義と演習(ゼミナール)を担当しています。講義では国連を中心とした国際組織法の基礎をしっかりと勉強しますが、演習ではやや間口を広げ、国際法一般に関わる問題を広く取り上げています。なにより演習で一番大事なのは学生の関心です。ですから私からこれといったテーマを与えることはなく、演習の最初の半年は学生が自分のテーマを見つけることを主眼として指導しています。とかく学生は、与えられた知識を素直に吸収するという勉強方法になれていますから、最初は何に関心があるのかという自分の問題意識を明確にするのが難しい。それを明らかにするには先行研究の文献を数多く読むことと議論をすることが必要ですが、幸い人文学部は学生の数に比べて教員数が多く、演習では教員と学生が直接議論する十分な時間があります。「なぜそう思うの?」「その事実はどこで確認したの?」という矢継ぎ早の私の質問に春はたじろいでいた学生も、秋になるころには、「先生はそうおっしゃいま

すけれど」と私の意見に反論してくるようになります。学生のそのような姿勢を見るのは、教員としてとても嬉しいものです。

国際組織法や国際法の問題を考えようとすると、その多くは海外の問題ではと思われるかもしれませんが、最近では日本でも領土紛争や人権問題に関連して国際法の知識が問題の解決に不可欠な場合も出てきています。また日本社会は経済的に海外と相互関係を深めていますので、外交官や国連職員だけが国際法を知っていれば良いのではなく、会社員や地方公務員も通常の業務の延長で外国や国際社会のルールを知ることが必要な場合も増えています。さらにこれからは日本人が国際社会のルールに従うだけではなく、逆に国際社会ではどんなルールが適切なのかというルール作りに日本人が参加することが期待されていますので、国際組織法や国際法をもっと身近に感じて、学ぶ人が増えてくれることを願っています。